

2021年西洋中世学会会員年間業績リスト（2021年1月～12月）

* 広い意味での西洋中世（古代末期～近世、イスラーム、ユダヤ、中東アジアなども含む）に関する刊行された業績を、自己申告していただいたものです。（氏名=五十音順）

上尾信也（アガリオ シンヤ）

[共訳]『原典 イタリア・ルネサンス芸術論（下）』（名古屋大学出版会）、「ヴィンチェンツォ・ガリレイ『古代と当代の音楽の対話』（抄）」、945-985頁。

[共著]『ピアノへの旅（コモンズ: スコラ） commons: schola vol.18』（坂本龍一、伊東信宏、小室敬幸との共著、アルテス）

朝治啓三（アサジ ケイゾウ）

[論文]「1250年リヨンにおけるグロステストとイノセント4世」『関西大学文学論集』70-4、47-78頁。

[論文]「1264、65年シモン・ド・モンフォールのパーラメント再考」、『関西大学東西学術研究所紀要』54輯、177-200頁。

[論文]「庶民院の創始？—一二六五年シモン・ド・モンフォールの議会」、『佛教大学 鷹陵史学』47、25-47頁。

[新刊紹介]Carpenter, David, Henry III, 1216-1258, Yale UP, 『西洋中世研究』13, pp.132-133.

阿部俊大（アベ トシヒロ）

「イスラームの海」から「キリスト教徒の海」へ——11～15世紀の西地中海」小林功・馬場多聞編著『地中海世界の中世史』ミネルヴァ書房、101-136頁。

[翻訳]カルロス・エステパ「戦争と課税：カスティージャ王アルフォンソ8世の治世（1158-1214年）から13世紀にかけての軍役給付金」『文化學年報』70、1-24頁。

有信真美菜（アリノブ マミナ）

Ordnung des Tisches bei Hofe. Die Rolle und Funktion der Tischzuchtliteratur und die Gast- und Festmähler in der Hofgesellschaft im Hoch- und Spätmittelalter, Tectum Verlag, Baden-Baden.

池上俊一（イケガミ シュンイチ）

『ヨーロッパ史入門 原形から近代への胎動』（岩波書店）

『原典イタリア・ルネサンス芸術論』上・下（監修および解説、名古屋大学出版会）

『魔術の書』（監修、グラフィック社）

『都市から見るヨーロッパ史』（河原温との共著、放送大学教育振興会）

「Quid tum」『ODYSSEUS』（東京大学大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻）25、1-23頁。

「《鳥獣戯画》から考える前近代ヨーロッパの動物表象と擬人化」『ユリイカ 特集・鳥獣戯画の世界』April（青土社）、249-256頁。

「解説 かけがえのない細部を慈しむ」清水廣一郎『中世イタリアの都市と商人』（講談社）169-176頁。

[共訳]レオン・バッティスタ・アルベルティ「絵画論」池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス芸術論』上巻（徳橋曜との共訳、名古屋大学出版会）、277-328頁。

石田隆太（イシダ リュウタ）

Individuality in the Godhead and the Trinity: Thomas Aquinas's theory of individuals. *Veritas: Kyodai Studies in Mediaeval Philosophy* (40), pp.1-17.

「天使学の共時的構造化——井筒、コルバン、アキナス」『理想』（理想社）706、78-88頁。

- [翻訳]「ネメシオス『人間の本性について』第1章 試訳」『新プラトン主義研究』（新プラトン主義協会）20、81-90頁。
- [翻訳]「サットンのトマス『第1任意討論集』第21問題 試訳」『宗教学・比較思想学論集』（筑波大学宗教学・比較思想学研究会）22、49-63頁。
- [翻訳]「ドゥンス・スコトゥス『「命題集」講義録』第2巻第3区分第1部第4問題（第101段落まで）試訳」『筑波哲学』（筑波大学哲学研究会）29、127-144頁。（本間裕之との共訳）
- [翻訳]「トマス・アキナス『諸元素の混合について』一試訳一」『古典古代学』（筑波大学大学院人文社会科学研究科古典古代学研究室）13、1-13頁。
- [翻訳]「ピエトロ・ポンポナツィ『魂の不死性について』試訳（第4章まで）」『哲学・思想論集』（筑波大学人文社会科学研究科哲学・思想専攻）46、97-117頁。（高石憲明との共訳）
- [翻訳]「トマス・アキナス『「魂について」註解』第三卷第六章 試訳」『倫理学』（筑波大学倫理学研究会）37、211-223頁。（高石憲明との共訳）
- [書評] Nicola Polloni, *The Twelfth-Century Renewal of Latin Metaphysics: Gundissalinus's Ontology of Matter and Form*. 『中世思想研究』（中世哲学会）63、118-124頁。
- [新刊紹介] Thomas d'Aquin, *L'éternité du monde*. 『西洋中世研究』13、135-136頁。
- [新刊紹介] Nicola Polloni, *The Twelfth-Century Renewal of Latin Metaphysics: Gundissalinus's Ontology of Matter and Form*. 『西洋中世研究』13、156-157頁。
- [新刊紹介] Josef Stern, James T. Robinson, and Yonatan Shemesh (eds.), *Maimonides' Guide of the Perplexed in Translation: A History from the Thirteenth Century to the Twentieth*. 『西洋中世研究』13、163頁。

市川佳世子（イチカワ カヨコ）

- [書評] Linda Pisani, Francesco Traini e la pittura a Pisa nella prima metà del Trecento. *The Burlington Magazine* 163, No. 1417, pp.380-381.

伊藤亜紀（イトウ アキ）

- [共訳] 池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス芸術論』名古屋大学出版会

井野崎千代子（イノサキ チヨコ）

The Expository Apposition Marker *bet is* and Punctuation in the Corpus MS of *Ancrene Wisse*. *Neophilologische Mitteilungen* 121 (2), Modern Language Society, pp.395-421.

Expressions for *Conscience* in the Ancrene Wisse Group. *ERA* 38, The English Research Association of Hiroshima, pp. 1-25.

今井澄子（イマイ スミコ）

『北方近世美術叢書 VI 天国と地獄、あるいは至福と奈落—ネーデルラント美術の光と闇—』（共編著、ありな書房）

“Portraits of Charles the Bold, Duke of Burgundy at Prayer,” *Bulletin of Osaka Ohtani University*, 55, pp. 135-158.

“Propagation of “Model”: The Donne Triptych by Hans Memling and the Reception of Early Netherlandish Arts in England,” in *Aesthetics*, The Japanese Society for Aesthetics, No.25, pp.11-23

[書評]「尾崎彰宏『静物画のスペクタクル オランダ美術にみる鑑賞者・物質性・脱領域』三元社、2021年」『図書新聞』第3506号、第5面。

伊能哲大（イヨク アキヒロ）

[共訳]『アシジの聖フランシスコ・聖クララ著作集』（フランシスコ会日本管区訳・監修。解説。教文館）

上柿智生（ウエガキ トモオ）

「一五世紀ビザンツ知識人の「西方」との出会いと別れ—ゲオルギオス・スホラリオスの教会合同問題への関与を例に」高田京比子他編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（昭和堂）、415-440頁。

内川勇太（ウチカワ ユウタ）

「アルフレッド王・エドワード古王・エセルスタン王の貨幣制度：『第2 エセルスタン法典』第14条の「1つの貨幣制度」と「王の支配地域」の考察から」『西洋中世研究』13、31-49頁。

[共訳]ウィンストン・ブラック『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』（平凡社）

大貫俊夫（オオヌキ トシオ）

[翻訳]ウィンストン・ブラック『中世ヨーロッパ ファクトとフィクション』（平凡社）

[共訳]ブルース・M・S・キャンベル／東京都立大学西洋中近世史ゼミ訳『「大遷移——後期中世世界における気候・疫病・社会」より第1章』『人文学報』（東京都立大学歴史学・考古学教室）49、112(29)-75(66)頁。

[共訳]西山雄二編『いま言葉で息をするために：ウイルス時代の人文知』（勁草書房）

[新刊紹介] Steven Vanderputten, *Medieval Monasticisms: Forms and Experiences of the Monastic Life in the Latin West*. 『西洋中世研究』13、165-166頁。

大沼由布（オオヌマ ユフ）

“Otherness as an Ideal: The Tradition of the ‘Virtuous’ Indians.” *‘Otherness’ in the Middle Ages*. Ed. Hans-Werner Goetz and Ian Wood. Brepols, pp. 319-338.

大宅明美（オオヤ アケミ）

[書評]「大浜聖香子『12-13世紀におけるポンティウ伯の中規模領邦統治』『西洋史学』271、94-96頁。

岡北一孝（オカキタ イッコウ）

「美術工芸と建築のあわい：ルネサンスのミニチュア建築」、『京都美術工芸大学研究紀要』1、35-48頁。

「ルネサンスにおける建築模型の役割：15世紀フィレンツェの建築模型について」、『2021年度日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 F-2、建築歴史・意匠』、571-572頁。

[翻訳]『原典イタリア・ルネサンス芸術論』（共訳、名古屋大学出版会）

[新刊紹介] Jean-Marie Guillouët et Ambre Vilain (dir.), *Microarchitectures médiévales. L'échelle à l'épreuve de la matière*, Paris, Éditions Picard, 2018, 『西洋中世研究』13、165頁。

[新刊紹介] 飛ヶ谷潤一郎『世界の夢のルネサンス建築』、エクスナレッジ、2020年、『建築史学』77、209-212頁。

尾形希和子（オガタ キワコ）

“Migration of Fantastic Creatures: The Stories of the *Pygmaioi* and Cranes”, in *Fantastic Beasts in Antiquity: Looking for the monster, discovering the Human* (eds. Sarah Béthume and Paolo Tomassini), Louvain-la-Neuve, Presses Universitaires de Louvain, 2021, pp.169-189.

小澤実 (オザワ ミノル)

「中世キリスト教圏：アフロ・ユーラシア世界で孤立していたのか？」吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い 158』（ミネルヴァ書房）、130-131 頁。

「ヴァイキング」社会経済史学会編『社会経済史学事典』（丸善出版）、424-425 頁。

「国家と貨幣」社会経済史学会編『社会経済史学事典』（丸善出版）、558-559 頁。

「かくて円環は閉じる—谷口幸男の翻訳活動と戦後日本の北欧中世研究」『立教大学日本学研究所年報』20、13-26 頁。

「序（特集：今を映すもう一つの歴史記述：偽史・オカルト・歴史実践）」『史苑』81(2)、37-43 頁。

「オカルト・学知・第三帝国：カーター『S S 先史遺産研究所アーネンエルベ』の周辺」『史苑』81(2)、81-92 頁。

「歴史実践をさかなでに読む：偽史・オカルト・歴史実践」『史苑』81(2)、102-112 頁。

「ルーン文字の遍歴：第6回：デンマーク王権のルーン石碑：ハーラル青歯王のイエリング石碑建立」『研究社 Web マガジン Lingua』（2021 年 11 月）

「ルーン文字の遍歴：第5回：北欧神話と気候変動を記憶するルーン石碑：レク石碑」『研究社 Web マガジン Lingua』（2021 年 8 月）

「ルーン文字の遍歴：第4回：ヴァイキングのルーン文字：新フサルクとルーン石碑の誕生」『研究社 Web マガジン Lingua』（2021 年 5 月）

「ルーン文字の遍歴：第3回：多様化するルーン文字：民族移動期からヴァイキング登場前夜」『研究社 Web マガジン Lingua』（2021 年 3 月）

[書評]「ゼバステイアン・コンラート著『グローバル・ヒストリー 批判的歴史叙述のために』（岩波書店）を読む」『図書新聞』3502（2021 年 7 月 3 日）

[書評]「ウィンストン・ブラック（大貫俊夫監訳）『中世ヨーロッパ：ファクトとフィクション』（平凡社、2021）」『日本経済新聞』（2021 年 6 月 19 日）

[書評]「ゼバステイアン・コンラート（小田原琳訳）『グローバル・ヒストリー 批判的歴史叙述のために』（岩波書店、2021）」『日本経済新聞』（2021 年 3 月 12 日）

[新刊紹介]「Fernande ALFIERI, and Takashi JINNO (eds.), *Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period: Perspectives from Europe and Japan*, Berlin- Boston: De Gruyter, 2021, vi+197 p.」『西洋中世研究』13、125 頁。

[新刊紹介]「James GRAHAM-CAMPBELL, *Viking Art, World of Art, new ed.* New York: Thames & Hudson, 2021, 207 p., 14.99£」『西洋中世研究』13、144 頁。

[新刊紹介]「Stephen Edred FLOWERS, *Revival of the Runes: The Modern Rediscovery and Reinvention of the Germanic Runes*, Rochester, VT: Inner Traditions, 2021, xiii+226 p., 16.10\$」『西洋中世研究』13、142-143 頁。

[新刊紹介]「Sverrir JAKOBSSON, *The Varangians: In God's Holy Fire, New Approaches to Byzantine History and Culture*, London: Palgrave Macmillan, 2020, xviii+212 p., 93.59€」『西洋中世研究』13、147-148 頁。

[新刊紹介]「Neil PRICE, *Children of Ash and Elm: A History of the Vikings*, London: Basic Books, 2020, xviii+599 p. 35\$」『西洋中世研究』13、156-157 頁。

「2020年読書アンケート」『みすず』700、74-75 頁。

櫻田宗紀 (オダ ソウキ)

『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』（共編著、文学通信）

「【連載】vol. 4 西洋中世研究者に向けた本書の読み方ガイド」（『欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識』特設サイト、文学通信）

加来奈奈 (カク ナナ)

“Les ambassadeurs des Anciens Pays-Bas et l’exécution de la paix des Dames ” in : *La paix des Dames. 1529*, edited by Jonathan Dumont, Laure Fagnart, Pierre-Gilles Girault and Nicolas Le Roux, Tours, Presses universitaires François Rabelais, pp. 135-146.

嵩井里恵子 (カサイ リエコ)

「中世における都市パリと大聖堂：シテ島東側の空間形成を中心に」坂野正則編『パリ・ノートル＝ダム大聖堂の伝統と再生：歴史・信仰・空間から考える』（勉誠出版）77-113頁。

梶原洋一 (カジワラ ヨウイチ)

「中世ドミニコ会における修学のための移動」『歴史学研究』1012、31-40 頁。

「2020年の歴史学界—回顧と展望：ヨーロッパ中世—西欧・南欧」『史学雑誌』130(5)、316-321 頁。

「研究経過報告『中世の托鉢修道会における大学学位の意義』」『京都産業大学総合学術研究所 所報』16、139-145 頁。

[共訳] ウィンストン・ブラック『中世ヨーロッパ：ファクトとフィクション』（大貫俊夫監訳、平凡社）

勝谷祐子 (カツタニ ユウコ)

「サン＝フロレ高地聖堂壁画様式研究 —作者と制作年代の推定—」『美術史』190、141-156 頁。

加藤磨珠枝 (カトウ マスエ)

『美術出版ライブラリー 西洋美術史』（「第3章中世 I ビザンティン、西欧初期中世」分担執筆、美術出版社）

[翻訳監修] クリストファー・デ・ハメル『中世の写本ができるまで』（立石光子訳、白水社）

[新刊紹介] John OSBORNE, *Rome in the Eighth Century: A History in Art* [British School at Rome Studies], Cambridge- New York, Cambridge University Press, 2020, xx+291p.+8p.of plates.
『西洋中世研究』13、155-156頁。

河原温 (カワハラ アツシ)

『都市から見るヨーロッパ史』（池上俊一と共著）（放送大学教育振興会）

『西洋中世史』（堀越宏一と共著）（放送大学教育振興会）

「15世紀ブルッへのエリート市民のアイデンティティ形成とブルゴーニュ公権力 —ピーテル・ブラーデルの事例を中心に—」『放送大学研究年報』38、117-125 頁。

菊地智 (キクチ サトシ)

「対話篇『シュヴェスター・カトライ』成立の背景と作品の意図についての一考」『宗教研究』第95巻第1分冊、25-48 頁。

[書評] Christopher M. Wojtulewicz, *Meister Eckhart on the Principle: An Analysis of the Principium in his Latin Works*, Eckhart: Texts and Studies, Vol. 5. Peeters: Leuven, 2017 (Louvain Studies 43/4), pp. 392-394.

菊地重仁 (キクチ シゲト)

Herrschaft, Delegation und Kommunikation in der Karolingerzeit. Untersuchungen zu den Missi dominici (751-888), Monumenta Germaniae Historica Hilfsmittel 31, (Wiesbaden: Harrassowitz).

岸田菜摘 (キシダ ナツミ)

「6-8世紀歴史叙述における疫病と「神の怒り」『疫病・終末・再生 中近世キリスト教世界に学ぶ』甚野尚志編 (知泉書院)、25-50頁。

「ラルフ・グラベールの『歴史五巻』に見るキリスト教世界と「ギリシャ人」」『エクフラシス』(11)、27-52頁。

北田葉子 (キタダ ヨウコ)

『世界歴史体系 イタリア史 第2巻(中世・近世)』(5章1・2分担執筆、山川出版社)

「ニッコロ・カンパーナーボローニャにおけるメディチ家のエージェント(1539-51) (1)」『明治大学教養論集』552、89-128頁。

「ニッコロ・カンパーナーボローニャにおけるメディチ家のエージェント(1539-51) (2)」『明治大学教養論集』536、79-113頁。

[新刊紹介]「赤松加寿江『近世フィレンツェの都市と祝祭』」『日伊文化研究』59、p. 113.

北館佳史 (キタダテ ヨシフミ)

「聖トマス・ベケットの約束と巡礼地の誕生：ポンティニーの聖エドモンド崇敬をめぐる論争」『人文研紀要』(中央大学人文科学研究所) 98、185-208頁。

『オバジーヌの聖エティエンヌ伝』試訳 (3) 『紀要』(中央大学文学部) 286、39-63頁。

久木田直江 (クキタ ナオエ)

Liz Herbert McAvoy and Naoë Kukita Yoshikawa, 'Mechthild of Hackeborn and Margery Kempe: An Intertextual Conversation', *Spicilegium* 4 (2021), 1-18. <http://spicilegium.net/>

Liz Herbert McAvoy and Naoë Kukita Yoshikawa, 'The intertextual dialogue and conversational theology of Mechthild of Hackeborn and Margery Kempe', in *Encountering The Book of Margery Kempe*, ed. Laura Kalas and Lura Varnam (Manchester: University of Manchester Press, 2021), pp. 43-62.

草生久嗣 (クサブ ヒサツグ)

「合同生活圏のビザンツ帝国とコンスタンティノーブル」神崎忠昭・長谷部史彦編『地中海圏都市の活力と変貌』(慶應義塾大学文学部)、247-262頁。

[書評]「小林功『生まれくる文明と対峙すること：7世紀地中海世界の新たな歴史像』」『歴史学研究』1009、25-27頁。

工藤義信 (クドウ ヨシノブ)

A Transcription of a Non-authorial Addition to Peter Idley's Instructions to his Son in Cambridge, Magdalene College, Pepys MS 2030. *Studies of Language and Culture* 25, pp. 101-114.

Reinstalling Clerical Authority, Juridical and Didactic: The Unique Rearrangements of Book II of Peter Idley's Instructions to his Son in London, British Library, Arundel MS 20. *Studies in Medieval English Language and Literature* 36, pp. 15-52 (republishing with minor adaptations).

[書評]Takami Matsuda, Choosaa Kantaberii monogatari: Janru wo meguru bouken. *Studies in Medieval English Language and Literature* 36, pp.123-127.

久米順子 (クメ ジュンコ)

[新刊紹介] Luís U. Afonso & Tiago Moita (eds.), *Sephardic Book Art of the Fifteenth Century*. 『西洋

中世研究』 13, p. 124.

[新刊紹介] Laura Rodríguez Peinado & Francisco de Asís García García (eds.), *Arte y producción textil en el Mediterráneo medieval*. Nikolaos Vryzidis (ed.), *The Hidden Life of Textiles in the Medieval and Early Modern Mediterranean: Contexts and Cross-Cultural Encounters in the Islamic, Latinate and Eastern Christian Worlds*. 『西洋中世研究』 13, pp.159-160.

[書評] Diana Arauz Mercado, *Pinceles olvidados. Mujeres artistas (siglos X-XVI)*. *Estudios de Historia de España* 23, 1-2, pp. 332-334.

桑原夏子 (クワバラ ナツコ)

[単行本、分担執筆] “Sull'iconografia delle Storie della Vergine nel ciclo trecentesco di Fossa”, M. Maccherini & L. Pezzuto, *Santa Maria ad Cryptas. Storia, arte, restauri* (Editori Paparo), pp. 75-83.

[展覧会評] “It's Our “Wound” – the Challenge of Accessibility to Cultural Sites in the Age of Covid-19 (Palazzo Strozzi, Florence, Italy)”, *ICOM International Committee for Regional Museums (Newsletter)*, pp. 10-11.

[エッセイ] 「インプルネータのワインと聖なる母たち」『地中海学会月報』 442、6 頁。

後藤里菜 (ゴトウ リナ)

『く叫び』の中世 キリスト教世界における救い・罪・霊性』(名古屋大学出版会)

佐伯 (片倉) 綾那 (サエキ (カタクラ) アヤナ)

「12世紀ビザンツ皇族女性の医療場面における活動 (研究ノート)」『都市文化研究』(大阪市立大学大学院文学研究科:都市文化研究センター) 23、99-111 頁。

[新刊紹介] 「Larisa O. Vilimonović, Structure and Features of Anna Komnene's *Alexiad*: Emergence of a Personal History」『西洋中世研究』 13、166-167 頁。

佐々木徹 (ササキ トオル)

[研究ノート] 「聖アンセルムス神学—スコラ神学の成立と展開」『茨城キリスト教大学紀要』 54、211-231 頁。

佐々木博光 (ササキ ヒロミツ)

[翻訳] ハインツ・シュタイナート 『マックス・ヴェーバーに構造的欠陥はあるのか—論破しがたいテーゼ—』 (ミネルヴァ書房)

[翻訳と訳者解題] ルイーゼ・ショルン=シュッテ 「カール・ランプレヒト—産官学連携のなかの文化史— その4」『人文学論集』 (大阪府立大学紀要) 第 39 集、89-203 頁。

「近世バーゼル大学の助成財団」『人間科学』 (大阪府立大学紀要) 16、31-72 頁。

薩摩秀登 (サツマ ヒデト)

「コスマス『ボヘミア人の年代記』第2巻について」『明治大学教養論集』 554、185-209 頁。

佐藤猛 (サトウ タケシ)

「百年戦争勃発と北フランス都市防備の主導権争い—ノワイヨン市壁修理訴訟の蒸し返しを事例に—」『日仏歴史学会会報』 36、3-20 頁。

佐藤公美 (サトウ ヒトミ)

「江川温・朝治啓三・服部良久三氏の報告に寄せて」『鷹陵史学』47、77-90頁。

「「暴君」リナルド・ダ・モンテヴェルデとフェルモの反乱——八聖人戦争期の移動する傭兵隊長——」高田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中・近世ヨーロッパ史のフロンティア』昭和堂、241-267頁。

[コラム] 「「小さな」地中海の交易網——兵庫津と比較する」甲南大学プレミアムプロジェクト神戸ガイド編集委員会編『大学的神戸ガイド——こだわりの歩き方』昭和堂、22-24頁。

[書評] 「中谷惣著『訴える人びと——イタリア中世都市の司法と政治——』」『西洋史学』271、81-82頁。

渋谷聡 (シブタニ アキラ)

「近世ドイツ帝国最高法院における法曹のネットワーク形成——18世紀末の事例から」高田京比子ほか編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（昭和堂）、147-166頁。

甚野尚志 (ジンノ タカシ)

Tyrannicide as an Act of Divine Justice. The Doctrines of Tyrannicide of John of Salisbury and Juan de Mariana, in: eds. Fernanda Alfieri & Takashi Jinno, *Christianity and Violence in the Middle Ages and Early Modern Period*, De Gruyter, pp.63-77.

「カール大帝は「終末の皇帝」か？—西暦800年と終末意識」、甚野尚志編『疫病・終末・再生—中近世キリスト教世界に学ぶ—』5-24頁。

「歴史家・朝河貫一への旅(4)—オットー・ヒンツェとの文通と「封建制の本質と拡大」への批判—」『エクフラシス—ヨーロッパ文化研究—』11、1-26頁。

杉山美耶子 (スギヤマ ミヤコ)

Images and Indulgences in Early Netherlandish Painting, Turnhout: Brepols Publishers, 2021.

Healing of the poor: the Hospital of Our Lady of Potterie in Bruges. *Health and Architecture: Designing Spaces for Healing and Caring in the Pre-Modern Era*, ed. by Mohammad Gharipour, Bloomsbury, pp. 56-73.

「忍び寄る死—ヤン・ファン・エイクと工房《磔刑》《最後の審判》二連画」今井澄子監修『天国と地獄、あるいは至福と奈落—ネーデルラント美術の光と闇』（ありな書房）、9-44頁。

Jan van Eyck's New York Diptych: a new reading on the Skelton of the Great Chasm. *Arts Special Issue. Flemish Art: Past and Present* 11 (4), online article: <https://www.mdpi.com/2076-0752/11/1/4>

図師宣忠 (ズシ ノブタダ)

『エーコ『薔薇の名前』——迷宮をめぐる〈はてしない物語〉』（慶應義塾大学出版会）

「異端者の情報にアクセスする—中世南フランスにおける異端審問記録の作成・保管・利用」高田京比子ほか編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（昭和堂）、169-192頁。

「中世ヨーロッパ貨幣研究の可能性」（西岡健司との共著）『西洋中世研究』13、2-10頁。

鈴木広和 (スズキ ヒロカズ)

「ケーザイの著作『ゲスタ』におけるナティオ」『ハンガリー研究』（大阪大学言語文化研究科ハンガリー語部会）1、107-130頁。

瀬戸直彦 (セト ナオヒコ)

« Note complémentaire sur l'emploi du terme « assassin » en ancien français et ancien occitan », in

Toute littérature est littérature comparée : Études de littérature et linguistique offertes à Roy Rosenstein, Amiens, Presses du Centre d'Études Médiévales de Picardie, 2021, pp. 540-548.

「ギラウト・リキエルのパストゥレルに流れる「メタ文脈」—第5歌(PC 248, 22)を中心に」『*Études Françaises* 早稲田フランス語フランス文学論集』, t.29, 2021, pp. 23-40.

高木麻紀子 (タカギ マキコ)

「『薔薇物語』 Le Roman de la Rose, Città del Vaticano, Biblioteca Apostolica Vaticana, Urb. lat. 376」『*Aspects of Problems in Western Art History*』 18、77-84 頁。

「ガストン・フェビュスの『狩猟の書』と中世末期の世俗美術」『日仏文化』 90、137-141 頁。

「15世紀前半のストラスブールにおける野人のタピスリー——《野人とムーア人》の図像分析を中心に」『日仏美術学会会報』 40、27-50 頁。

高名康文 (タカナ ヤスフミ)

「ファブリオーにおける貨幣」『西洋中世研究』 13、50-63 頁。

「歴史で謎解き！フランス語文法」第 21-31 回、三省堂辞書ウェブ「ことばのコラム」、<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/columncat/言語/歴史で謎解き！フランス語文法> (有田豊、ジョルジュ・ヴェスイエール、片山幹生との共著)

瀧本佳容子 (タキモト カヨコ)

[新刊紹介] Rafael Lapesa, *La obra literaria del marqués de Santillana* 『西洋中世研究』 13、150-151 頁。

[新刊紹介] Pedro Martín Baños, *La pasión de saber: Vida de Antonio de Nebrija* 『西洋中世研究』 13、152-153 頁。

田口正樹 (タグチ マサキ)

Friedensräume: Burgfrieden, Kirchenfrieden, Gerichtsfrieden, Marktfrieden, in: Irene DINGEL, Michael ROHRSCHEIDER, Inken SCHMIDT-VOGES, Siegrid WESTPHAL, Joachim WHALEY (Hrsg. / Eds.), *Handbuch Frieden im Europa der Frühen Neuzeit / Handbook of Peace in Early Modern Europe*, De Gruyter Oldenburg, München, pp. 227-243.

Herrscher, Hofgericht und Schiedsgericht: Gerichtliche Entscheidungen am deutschen Herrscherhof im 14. Jahrhundert, in: Anja AMEND-TRAUT, Ignacio CZEGUHN und Peter OESTMANN (Hg.), *Urteiler, Richter, Spruchkörper. Entscheidungsfundung und Entscheidungsmechanismen in der europäischen Rechtskultur*, (Quellen und Forschungen zur Höchsten Gerichtsbarkeit im Alten Reich, Bd. 75), Böhlau Verlag, Wien u. a., pp. 95-126.

「裁きに服する王—13・14世紀ドイツにおける支配者と法との関係の一側面」春田直紀・新井由紀夫・David Roffe 編『歴史的世界へのアプローチ』(刀水書房) 62-81 頁。

「シンポジウム報告 ミニ・シンポジウム「日本における法史研究の歴史」趣旨説明」『法制史研究』 70、127-130 頁。

「等族国家(身分制国家)」社会経済史学会編『社会経済史学事典』(丸善出版) 538-539 頁。

[書評] Rödel, Ute (Bearb.), *Die Zeit Ruprechts 1407-1410, (Quellen und Forschungen zur Höchsten Gerichtsbarkeit im Alten Reich; Sonderreihe Urkundenregesten zur Tätigkeit des deutschen Königs- und Hofgerichts bis 1451, Bd. 17)*, Böhlau, Wien 2018, XCIX, 473S., *Zeitschrift der Savigny-Stiftung für Rechtsgeschichte, Germanistische Abteilung* 138, pp. 620-623.

[書評]「櫻井利夫(補論)中世盛期バイエルンの貴族ファルケンシュタイン伯の城塞支配権—領域支配

権の視角から」『法制史研究』70、432-434頁。

[書評]「服部良久著『中世のコミュニケーションと秩序—紛争・平和・儀礼』」『史林』104(2)、64-70頁

[書評]「学界展望<西洋法制史> Verena Epp und Christoph H. F. Meyer (Hg.), *Recht und Konsens im frühen Mittelalter*, (Vorträge und Forschungen, Bd. 82) (Thorbecke 2017, 487S.)」『国家学会雑誌』134(7/8)、113-115頁。

[新刊紹介]「Robert BARTLETT, *Blood Royal: Dynastic Politics in Medieval Europe*, Cambridge, Cambridge University Press, 2020, xiv+660p.」『西洋中世研究』13、127頁。

[新刊紹介]「Wolfram BUCHWITZ, *Schiedsverfahrensrecht in Antike und Mittelalter: Eine historische Grundlegung*, Wien-Köln-Weimar, Böhlau Verlag, 2020, xviii+372p.」『西洋中世研究』13、130-131頁。

田島篤史 (タジマ アツシ)

「いかにして牛乳は盗まれたか—日常における悪魔の介在と前近代的合理性—『資料学の方法を探る』(愛媛大学「資料学」研究会) 20、125-132頁。

[共訳]「イェルク・ヴィクラム『少年の鑑』(1554年)(8)」『独逸文学』(関西大学独逸文学会) 65、143-158頁。

田中圭子 (タナカ ケイコ)

「ルネサンス期ドイツの知識人による書簡作成の理論と実践—コンラート・ツェルティス、ジクストゥス・トゥヒャー往復書簡より」『社会文化史学』64、1-16頁。

田中俊之 (タナカ トシユキ)

「現下の悪だくみ、それはハプスブルクか—1291年のスイス中央山岳地域」高田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』(昭和堂)、103-124頁。

田邊めぐみ (タナベ メグミ)

「祈りのあとさき—『アンヌ・ド・ブルターニュの大時祷書』をめぐって」『Stella』(九州大学フランス語フランス文学研究会) 40、103-125頁。

[新刊紹介] Jean-Luc Deuffic avec la collaboration de Diane E. Booton, *Le Livre d'heures enluminé en Bretagne*, 2019. 『西洋中世研究』13、137頁。

[新刊紹介] João Carvalho Dias, François Avril, Angela Dillon Bussi (eds.), *European Illuminated Manuscripts in the Calouste Gulbenkian Collection*, 2020. 『西洋中世研究』13、138頁。

津田拓郎 (ツダ タクロウ)

「8・9世紀アフロユーラシア世界におけるカロリング朝フランク王国」『史学研究』308、1-38頁。

「日独の中等教育課程における歴史教育の現状と課題」『史流』48、59-84頁。(コンラート フレンツェルとの共著)

寺田龍男 (テラダ タツオ)

Kinuginu – Dawn Songs in the Japanese Court Society of the Middle Ages. Some Aspects on Reality and Fiction. 『北海道大学大学院教育学研究院紀要』139、145-158頁。

藤内哲也（トウナイ テツヤ）

「ヴェネツィア共和国」齊藤寛海編『世界歴史大系 イタリア史 2 中世・近世』（山川出版社）、521-540 頁。

【翻訳・解題】「印刷術・書体論 アルド・マヌーツィオ関連資料」池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス芸術論』上巻（名古屋大学出版会）、457-469 頁。

【書評】「石坂尚武『苦難と心性 イタリア・ルネサンス期の黒死病』」『西洋史学』270、109-111 頁。

中川久嗣（ナカガワ ヒサシ）

「南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂（2）」『東海大学紀要 文化社会学部』5、101-127 頁。

「南フランス・ガール県東部のロマネスク聖堂（3）」『東海大学紀要 文化社会学部』6、93-126 頁。

「南フランス・ドローム県中部の中世ロマネスク聖堂（1）」『文明研究』（東海大学文明学会）39、75-103 頁。

仲田公輔（ナカダ コウスケ）

「10 世紀におけるアルメニア＝ビザンツ関係と聖人崇敬—聖ペテロの指に関する伝承の移転と変容をめぐって」『西洋史研究』新輯 50、30-52 頁。

【学会動向】「2020 年の歴史学会—回顧と展望：中世 ロシア・ビザンツ」『史学雑誌』130-5、330-332 頁。

【書評】「小林功『生まれくる文明と対峙すること—7 世紀地中海世界の新たな歴史像』」『史学雑誌』130-2、85-97 頁。

服部良久（ハットリ ヨシヒサ）

「ヨーロッパ中世史における『公共圏』論の射程」『鷹陵史学』47、49-76 頁。

「中世後期ドイツの政治的コミュニケーションと秩序—権力表象と同盟・ネットワーク」高田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』（昭和堂）3-28 頁。

濱野敦史（ハマノ アツシ）

「一三五五年のカール四世のピサ入市」『メトロポリタン史学』16、83-96 頁。

「ボンヴェジン・ダ・ラ・リーヴァのミラノ」『地中海学会月報』440、5 頁。

【新刊紹介】「Daniele GIUSTI, *I Gaddi da pittori a uomini di governo: ascesa di una famiglia nella Firenze dei Medici* [Biblioteca storica toscana, serie I, vol. 79], Firenze, Leo S. Olschki Editore, 2019」『西洋中世研究』13、143 頁。

平野智洋（ヒラノ トモヒロ）

【翻訳】「ミハイル・パナレトス『トラペズスの諸皇帝について』(1)—第 1-37 章—」『東海史学』55、25-41 頁。

藤崎衛（フジサキ マモル）

「心地よく迷走する」『教養学部報』（東京大学教養学部）628、2 頁。

「予言の棺」『地中海学会月報』443、5 頁。

【翻訳】ジェフリー・バラクロウ『中世教皇史 改訂増補版』（八坂書房）

【共訳】デイヴィッド・アブラフィア『地中海と人間—原始・古代から現代まで』（高山博監訳、藤原書店）

【新刊紹介】「ベルンハルト・シンメルペニツヒ『ローマ教皇庁の歴史 古代からルネサンスまで』」『史学雑誌』130-4、111 頁。

藤村拓也 (フジムラ タクヤ)

「デューラー風の犬」についての覚書—アルブレヒト・デューラー作《キリストの鞭打ち》を中心に—『町田市立国際版画美術館紀要』24、3-16頁。

堀越宏一 (ホリコシ コウイチ)

『中世ヨーロッパの妃たち』(パトリック・コルベ、堀越宏一編、山川出版社)、全体の翻訳と解説。
『西洋中世史』(河原温・堀越宏一編、放送大学教育振興会)、放送大学大学院文化科学研究科テキスト、第4・5・7・9・10・15章を担当。

松根伸治 (マツネ シンジ)

「12世紀の枢要徳論—異教徒の徳という視点から」(シンポジウム提題)『中世思想研究』63、56-64頁。

松本涼 (マツモト サヤカ)

「最果ての島の貴族：—三世紀アイスランドにおける階層分化」高田京比子ほか編著『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』(昭和堂)、357-378頁。

「中世アイスランド史と紛争・フェーデ研究」『福井県立大学論集』55、17-30頁。

[書評]「Margaret Willson, *Seawomen of Iceland: Survival on the Edge*, University of Washington Press 2016」『北欧史研究』38、77-82頁。

古市憲寿×松本涼「挫折したけど中身を知りたい『名著』の話 第13回」FILIT 111号

三佐川亮宏 (ミサガワ アキヒロ)

[翻訳] メールゼブルクのティートマル、三佐川亮宏訳注『オットー朝年代記』(知泉書館)

[新刊紹介] *Mittelalter lesbar machen. Festschrift 200 Jahre Monumenta Germaniae Historica*. Harrassowitz Verlag, 2019 : 『西洋中世研究』13、154-155頁。

向井伸哉 (ムカイ シンヤ)

Les conflits du droit de pêche entre Sérignan et Vendres : État, marché, guerre et changement climatique sur le littoral languedocien à la fin du Moyen Âge. *Études héraultaises* 57, pp. 201-209.

Le gouvernement du village languedocien au bas Moyen Âge : le cas de Sérignan (Hérault) au XIVe siècle. *Cahiers de recherches médiévales et humanistes* 41, pp. 427-462.

「中世後期南仏ベジエ地方における村落自治と村落文書—中近世畿内地方との比較を念頭に—」『歴史科学』246、1-12頁。

「日本学界における西洋中世村落自治の研究史(1930年代~1960年代)—ドイツ史学の潮流と講座派マルクス主義の間で—」『新しい歴史学のために』298、85-99頁。

[翻訳] ヴァレリー・トゥレイユ「戦争の暴力と市井の人々—ジャンヌ・ダルクの家系に関わる新史料：ジャン・ド・ヴトンへの国王赦免状—」『西洋中世研究』13、100-111頁。

村田光司 (ムラタ コウジ)

An Overlooked Excerpt of the Chronicle of George the Monk in Codex Parisinus Suppl. gr. 1238. *Parekbolai. An Electronic Journal for Byzantine Literature* 11, pp. 113-122.

(with H. Hayakawa, T. Iju, B. P. Besser) Daniel Mögling's Sunspot Observations in 1626–1629: A Manuscript Reference for the Solar Activity before the Maunder Minimum. *The Astrophysical Journal* 909 (2-194), pp. 1-7.

(with H. Hayakawa, Y. I. Fujii, Y. Mitsuma et al.) Three case reports on the cometary plasma tail in the historical documents. *Journal of Space Weather and Space Climate* 11 (21), pp. 1-11.

(with K. Ichikawa, Y. I. Fujii, H. Hayakawa et al.) Cometary records revise Eastern Mediterranean chronology around 1240 CE. *Publications of the Astronomical Society of Japan* 73 (1), pp. 197-204.

[書評]「河内祥輔、小口雅史、M・メルジオヴスキ、E・ヴィダー編『儀礼・象徴・意思決定 日欧の古代・中世書字文化』—西洋史の立場から—」『法政史学』96、94-99頁。

[新刊紹介]「アンナ＝コムニニ著（相野洋三訳）『アレクシアス』（悠書館、2019年）」『史学雑誌』129（12）、88頁。

村松綾（ムラマツ アヤ）

「研究ノート 近世初期の都市バーゼルにおける市民と金工」『比較都市史研究』40、9-18頁。

望月滯（モチツキ リョウ）

[新刊紹介]「金澤周作監修 藤井崇・青谷秀紀・古谷大輔・坂本優一郎・小野沢透編著『論点・西洋史学』」『史学雑誌』130-9、119-120頁。

八木健治（ヤギ ケンジ）

『羊皮紙のすべて』（青土社）

山田雅彦（ヤマダ マサヒコ）

[論文]「中世中期フランス王国の「市場権」形成史—造幣権との比較を通して—」『京都女子大学大学院文学研究科・研究紀要（史学編）』20、1-26頁。

「市場は国王大権にあらざるなる—中世初期フランク王権の市場と貨幣の比較から—」『史窓』（京都女子大学史学会）78、101-113頁。

山辺規子（ヤマベ ノリコ）

「西洋中世の貴族の「家」維持と「母」機能」高田京比子・三成美保・長志珠絵編『〈母〉を問う—母の比較文化史』（神戸大学出版会）、207-227頁。

「黒死病流行期の大学都市ボローニャ」『奈良女子大学文学部研究教育年報』17、35-48頁。

「第一章2 中世前期の教皇権と教皇領」齋藤寛海編『世界歴史体系イタリア史2 中世・近世』山川出版社、36-51頁。

「第三章6 中世後期の教皇と教皇領」齋藤寛海編『世界歴史体系イタリア史2 中世・近世』（山川出版社）、330-348頁。

「第五章5 教皇国家」齋藤寛海編『世界歴史体系イタリア史2 中世・近世』（山川出版社）、557-574頁。

「2020年の歴史学界-回顧と展望 ヨーロッパ中世（一般）」『史学雑誌』125(5)、319-320頁。

芳野明（ヨシノ アキラ）

[翻訳] マルカントニオ・ミキエル「美術品消息」『原典イタリア・ルネサンス芸術論 下』（名古屋大学出版会）

頼順子（ライ ジュンコ）

[共訳] ヤエル・ナゼ『女性と天文学』（恒星社厚生閣）

「近世初頭の狩猟書における写本と版本の融合——トリノ国立文書館所蔵史料 J.a.IX.4 の場合——」

『史窓』（京都女子大学史学会）78、147-187頁。

和栗珠里（ワグリ ジュリ）

「軍制の展開」齊藤寛海編『世界史大系 イタリア史 2 —中世・近世—』（山川出版社）、175-192 頁。

渡邊裕一（ワタナベ ユウイチ）

「中世後期アウクスブルクにおける「大量死」—ペスト被害の通時的考察」甚野尚志編『疫病・終末・再生 中近世キリスト教世界に学ぶ』（知泉書館）、135-151 頁。

「中近世ドイツ都市における給水システム—帝国都市アウクスブルクの事例から（特集：環境史の課題）」『西洋史学』270、64-78 頁。

「帝国都市アウクスブルクにおける水の利用とその管理（シンポジウム「ヨーロッパ史における水の資源化とその管理・統制）」『西洋史学論集』58、56-61 頁。

「ペスト患者へのまなざし—中・近世アウクスブルクの疫病対策」『新しい歴史学のために』299、21-35 頁。

「〈研究動向・展望〉アルプス地域～南ドイツにおける移動と技術移転—ピルグラム・マールペックの事例から」『九州歴史科学』49、1-13 頁。

「はじめに—趣旨説明〈特集〉足立孝著『辺境の生成—征服＝入植運動・封建制・商業—』をめぐって」『九州歴史科学』48、76-77 頁。

「新型コロナ禍における歴史教育・研究実践」『七隈史学会会報』34、25-29 頁。

[書評]「渡辺浩一／マシュー・デーヴィス『近世都市の常態と非常態—人為的自然』」『史潮』新 90 号、115-123 頁。

渡辺有美（ワタナベ ユミ）

[国際発表] "Mary in Japan: The History of Art Perspective," PAMI (Pontifica Acaemia Mariana Internationalis) , Maria tra teologie e culture oggi, modelli, comunicazioni, propettive, AOMA 部門. 2021 年 9 月 9 日（木）発表（オンライン）